

「施策」総括票

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備
施策	③圏域の拠点港湾等の整備	
対応する 主な課題	○各圏域における交流拠点である本部港(北部)、平良港(宮古)、石垣港(八重山)においては、国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図るため、国際クルーズ船の寄港・就航を促進するための旅客船バースを整備する必要がある。	
関係部等	土木建築部	

I 主な取組の推進状況(Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
1	石垣港の整備	国直轄	順調	○国は、大型旅客船ターミナル整備事業として岸壁・防波堤・泊地浚渫等の整備を進めた。(1)
2	平良港の整備	国直轄	順調	○国は、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁整備、ふ頭用地、臨港道路、緑地等の整備を進めた。(2)
3	本部港の整備	1,031,297	やや遅れ	○国際クルーズ船が寄港可能な耐震岸壁を整備していたが、8月の台風により整備中の岸壁が被災したため、平成25年3月に予定していた岸壁の供用開始を延長し、現在災害復旧工事を行っている。(3)
4	金武湾港の整備	202,939	順調	○金武湾港において、海中道路の橋をくぐり南北に結ぶ航路の整備として浚渫工事を実施した。(4)

様式2(施策)

II 成果指標の達成状況(Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	北部、宮古、八重山圏域におけるクルーズ船寄港回数	53回 (23年)	58回 (24年)	86回	5回	—
状況説明	平成24年は北部圏域が0回、宮古圏域が5回、八重山圏域が53回の計58回クルーズ船が寄港し、前年に比べ5回増加した。H28目標値の達成に向け、引き続き本部港などで大型クルーズ船の寄港に対応した岸壁などの整備に取り組む。					

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

III 内部要因の分析(Check)

- ・本部港は伊江島、鹿児島への定期航路があるため、船舶会社と工程の調整を行うなど船舶会社及び利用者の安全性、利便性に配慮しながら整備を推進する必要がある。
- ・金武湾港における航路の整備については、計画航路付近にモズク養殖場があり、12月から4月の間はもずくの苗床時期及び収穫時期であるため工事ができない。また海上工事は汚濁拡散防止などの環境対策に十分に配慮した整備を行う必要がある。

IV 外部環境の分析(Check)

- ・東アジアへの展開を予定している外国船社やその代理店から、大型クルーズ船を宮古島や石垣島を含め沖縄へ寄港させたいとの声が高まっているため、大型クルーズ船に対応したバースの整備が課題である。そのため県は、国や石垣市、宮古島市と連携し、大型クルーズ船に対応した早期の岸壁整備、CIQ施設等の受け入れ体制の強化を促進する必要がある。
- ・本部港においては、平成24年の8月の台風11号及び台風15号により、整備中の耐震強化岸壁が被災した。その復旧工事に6ヶ月程度要するため、平成25年3月に予定していた耐震強化岸壁の供用開始は困難なことから、工程を見直す必要がある。

V 施策の推進戦略案(Action)

- ・石垣港の整備については、県は国や石垣市に対し、早期の施設整備の促進を図るよう要望していく。またクルーズ船の受け入れ体制の強化については、地元、旅行会社などの関係機関等と協働し、観光客及び船舶会社の寄港地に対する満足度が向上するような方策の検討を石垣市に要望していく。
- ・平良港の整備については、県は国や宮古島市に対し、平成31年度の漲水地区(Ⅰ期)供用開始に向け事業促進を図るよう要望していく。またクルーズ船の受け入れ体制の強化については、石垣港と同様に、宮古島市に要望していく。
- ・本部港においては、復旧工事を早急に進めるとともに、また工程の見直しをすることで船舶会社及び利用者の安全性、利便性を確保した整備を推進し、平成26年3月までに岸壁の供用開始を図る。
- ・金武湾港における航路の整備については、もずくの収穫時期等に配慮した工事時期(5月から11月まで)とするとともに、汚濁防止膜等により濁水の拡散を防止することで環境対策に十分配慮した整備を行う。